

生物学 I

系統樹と進化・ 系統分類の基礎・ 学名

2011.10.19

系統分類の目的

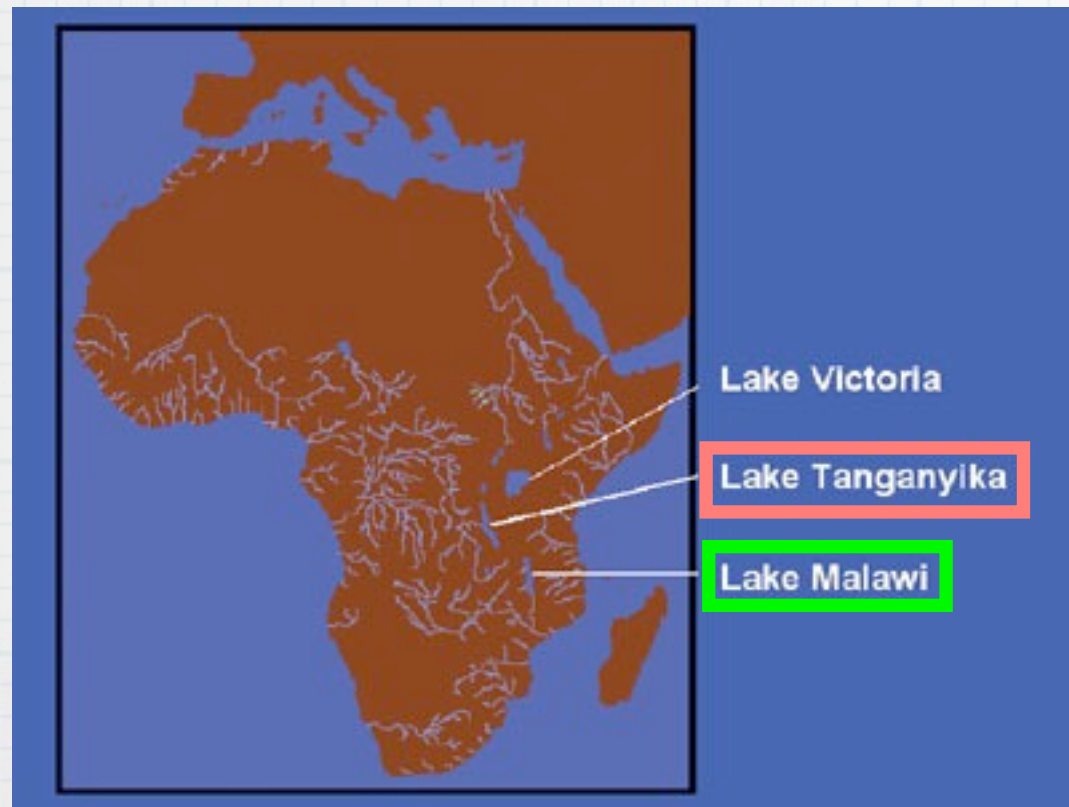
- * 系統樹を推定する

使えるデータは現生の生物と化石

- * 系統樹の推定＝進化の筋道の解読

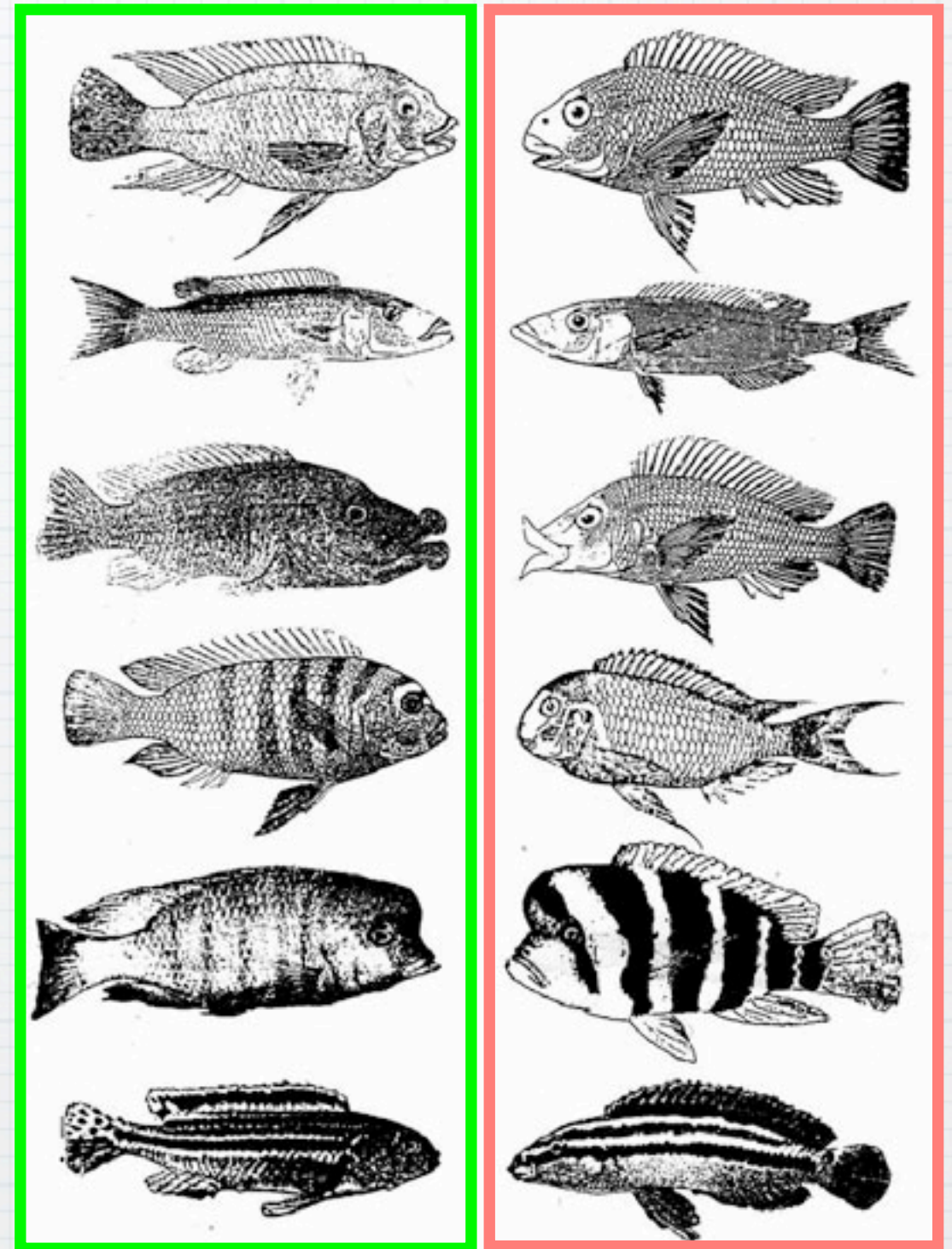
進化の筋道の解釈が違うと現生の生物がもつ
データの意味・重みが変わる

アフリカ東部のシクリッド科魚類の 系統地理学的考察 (Kocherら, 1993)



シクリッド科魚類

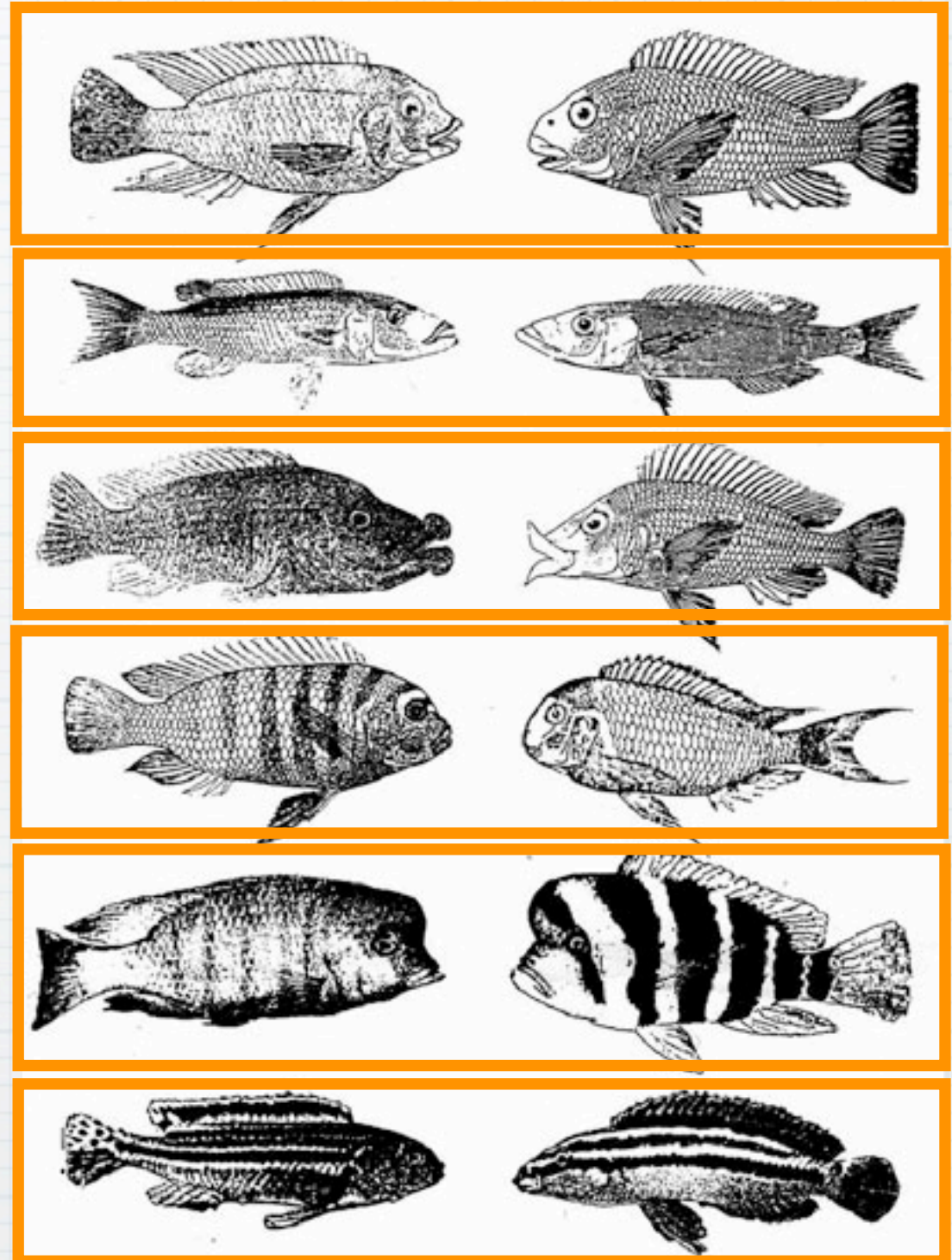
- *形態的に多様
- *様々な生態的ニッチに適応
- マラウイ湖↔タンガニーカ湖
- *お互いに似た種



マラウイ湖 タンガニーカ湖

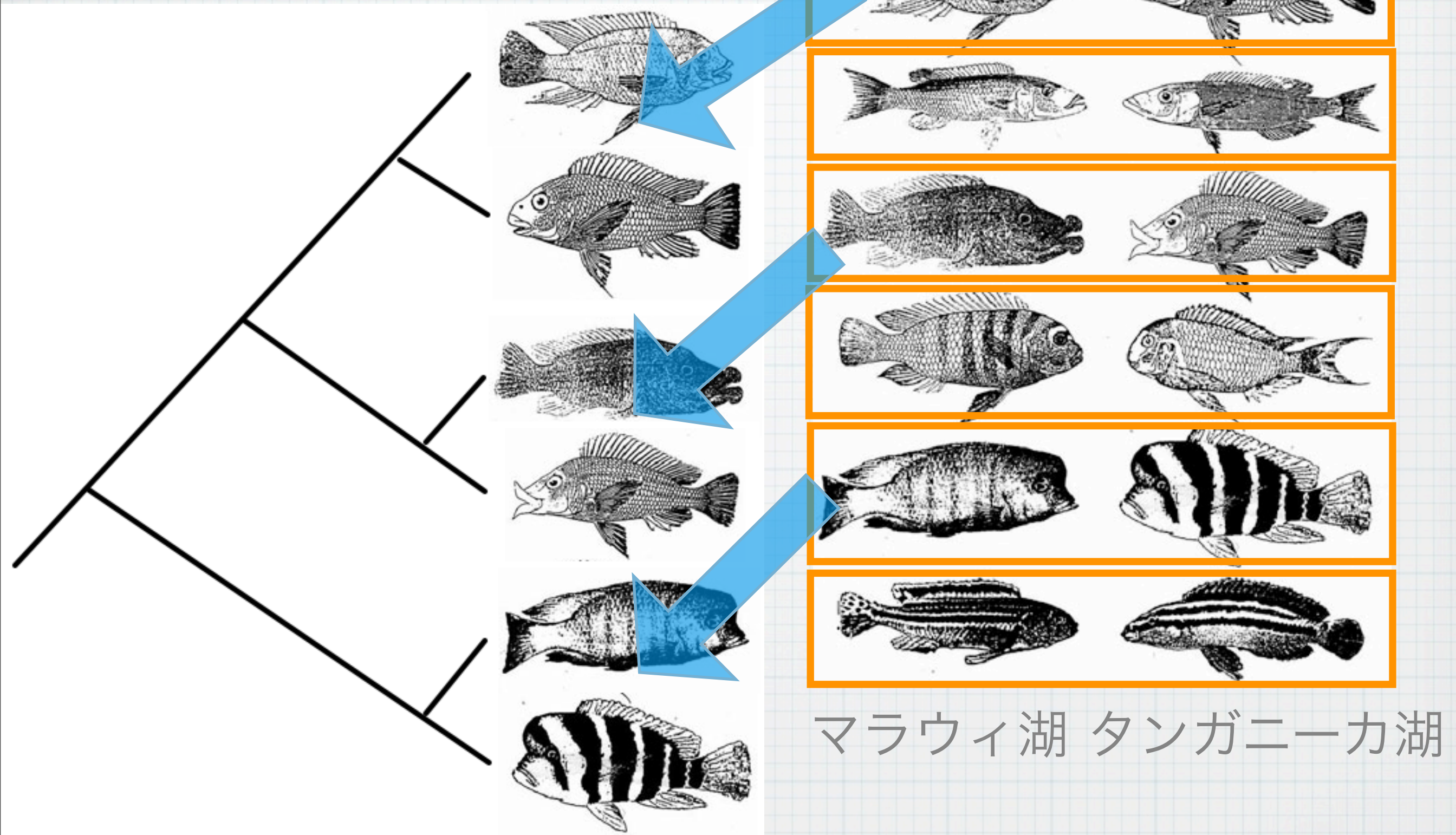
アフリカ東部のシクリッド科魚類の 系統地理学的考察 (Kocherら, 1993)

仮説1：似た種はそれぞれ共通祖先を持ち、祖先種が2つの湖に隔離後、独自に進化。



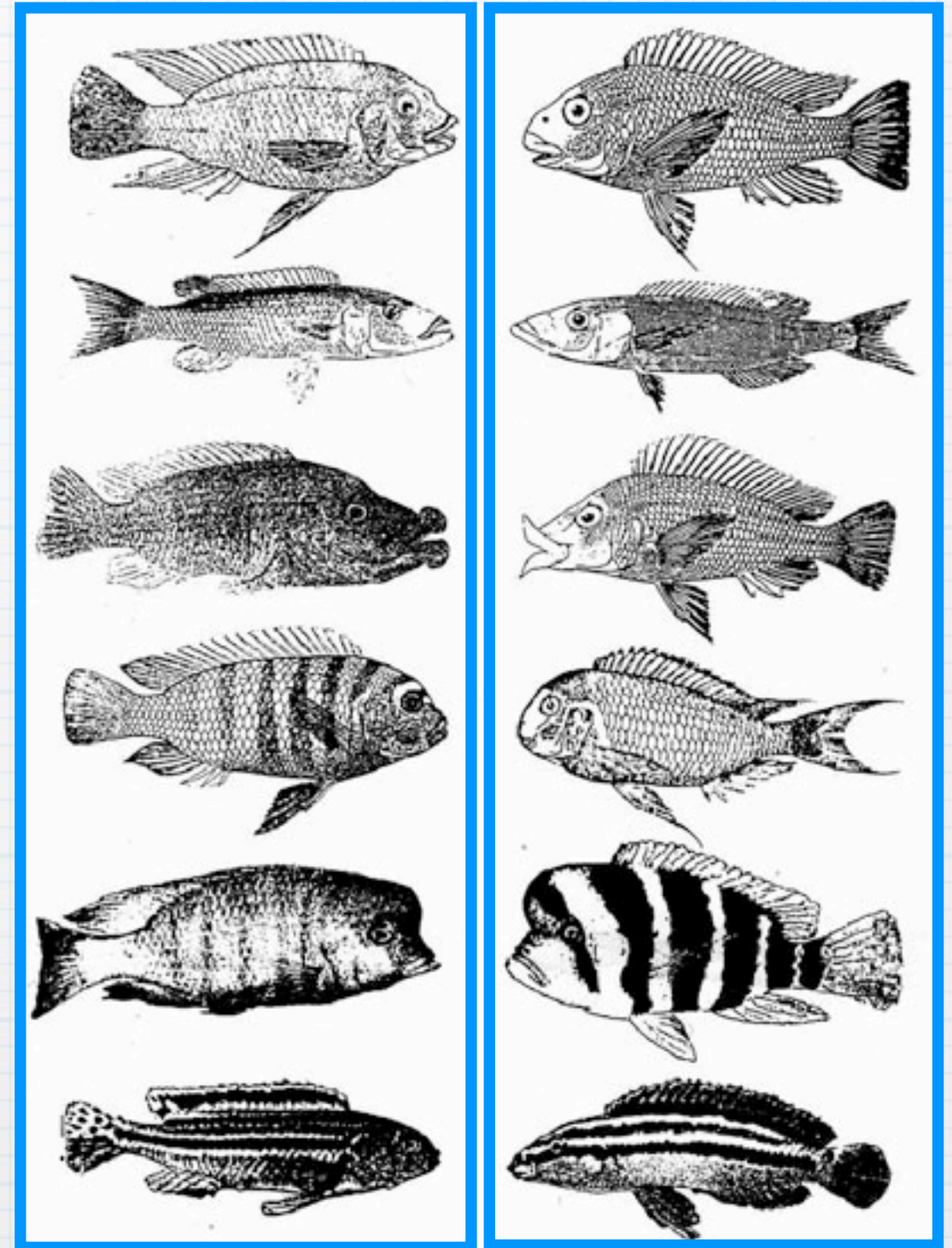
マラウイ湖 タンガニーカ湖

仮説 1 : 似た種が近縁



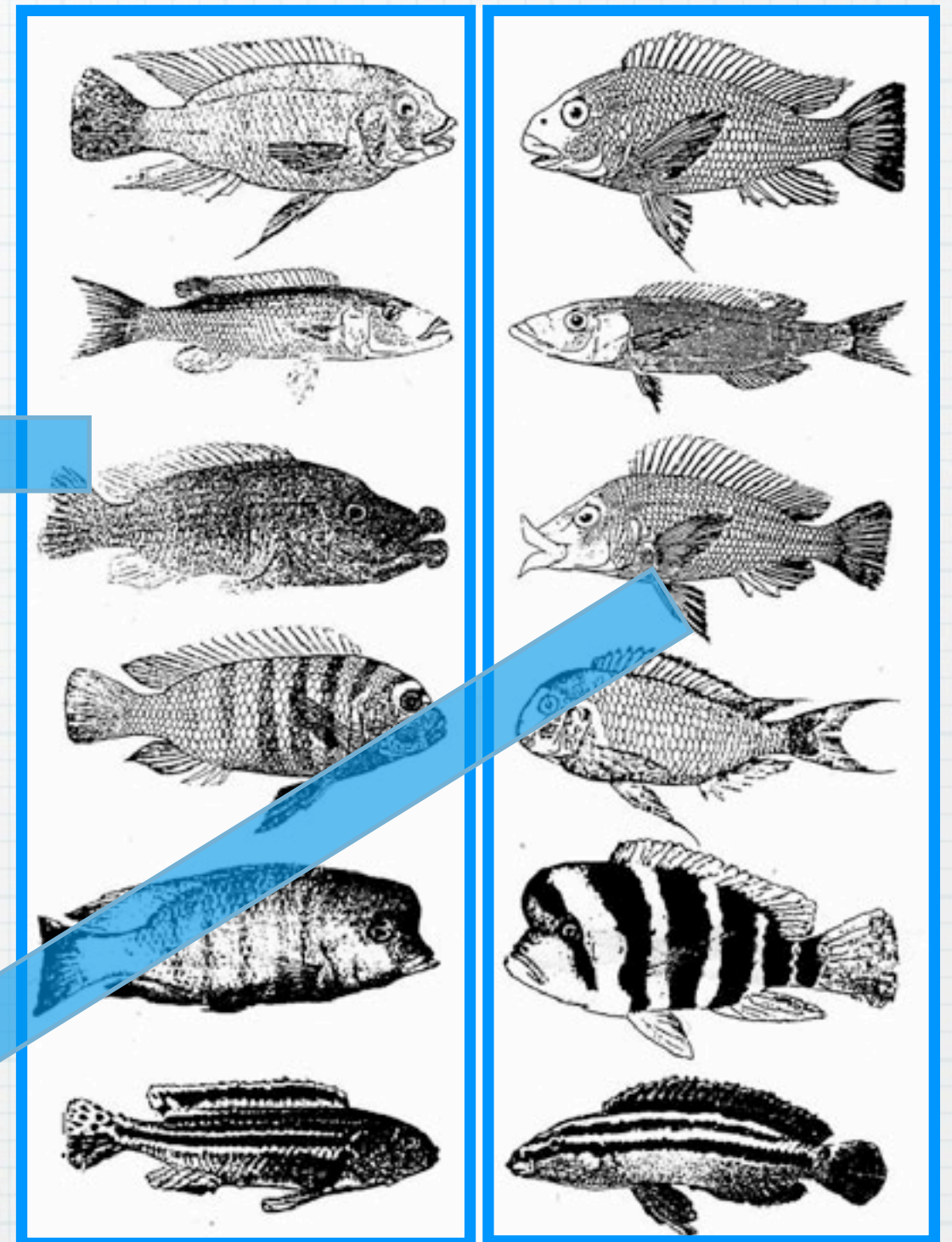
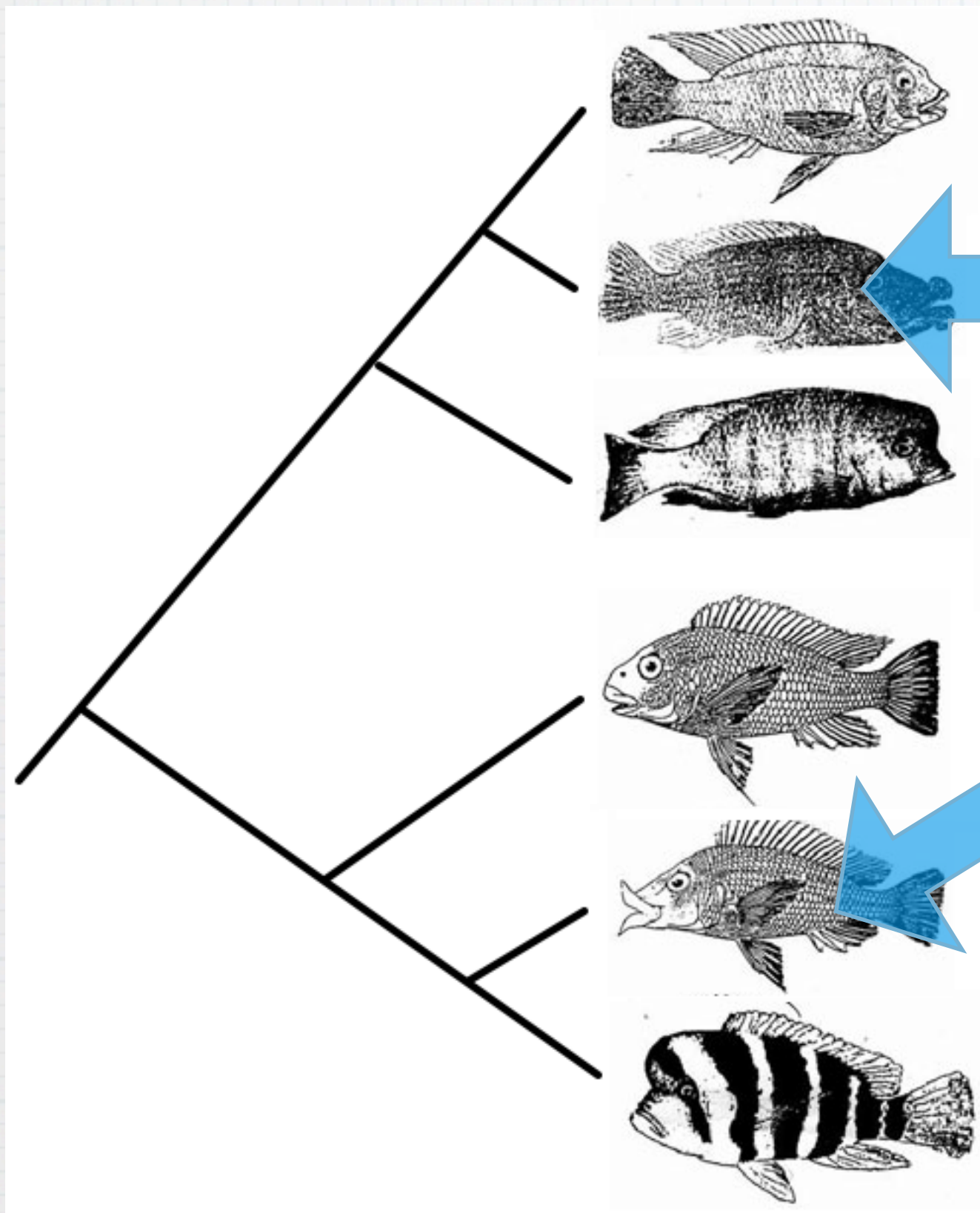
アフリカ東部のシクリッド科魚類の 系統地理学的考察 (Kocherら, 1993)

仮説2：2つの湖にそれぞれ
1種の祖先種が入り込み、湖
ごとに形態的分化。



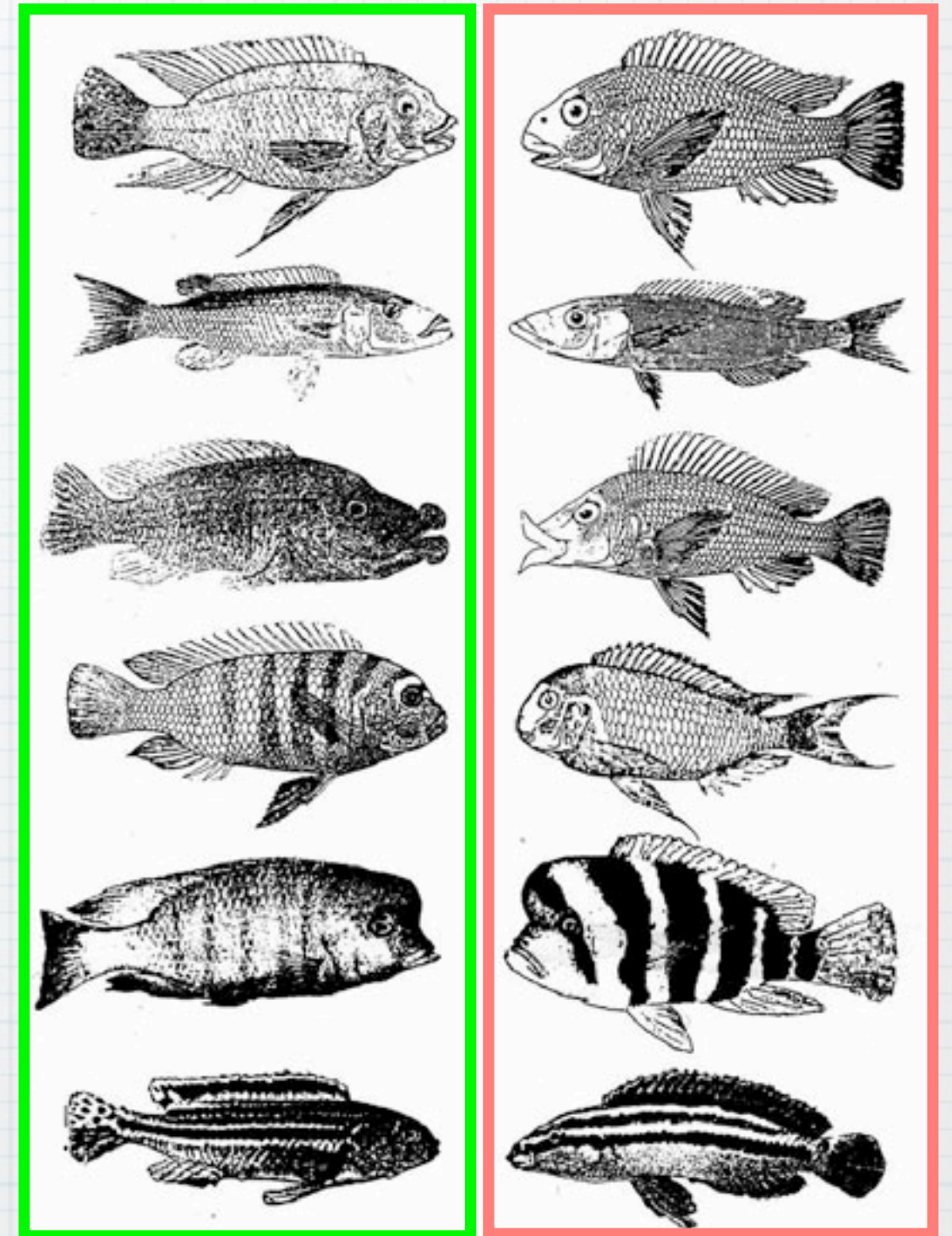
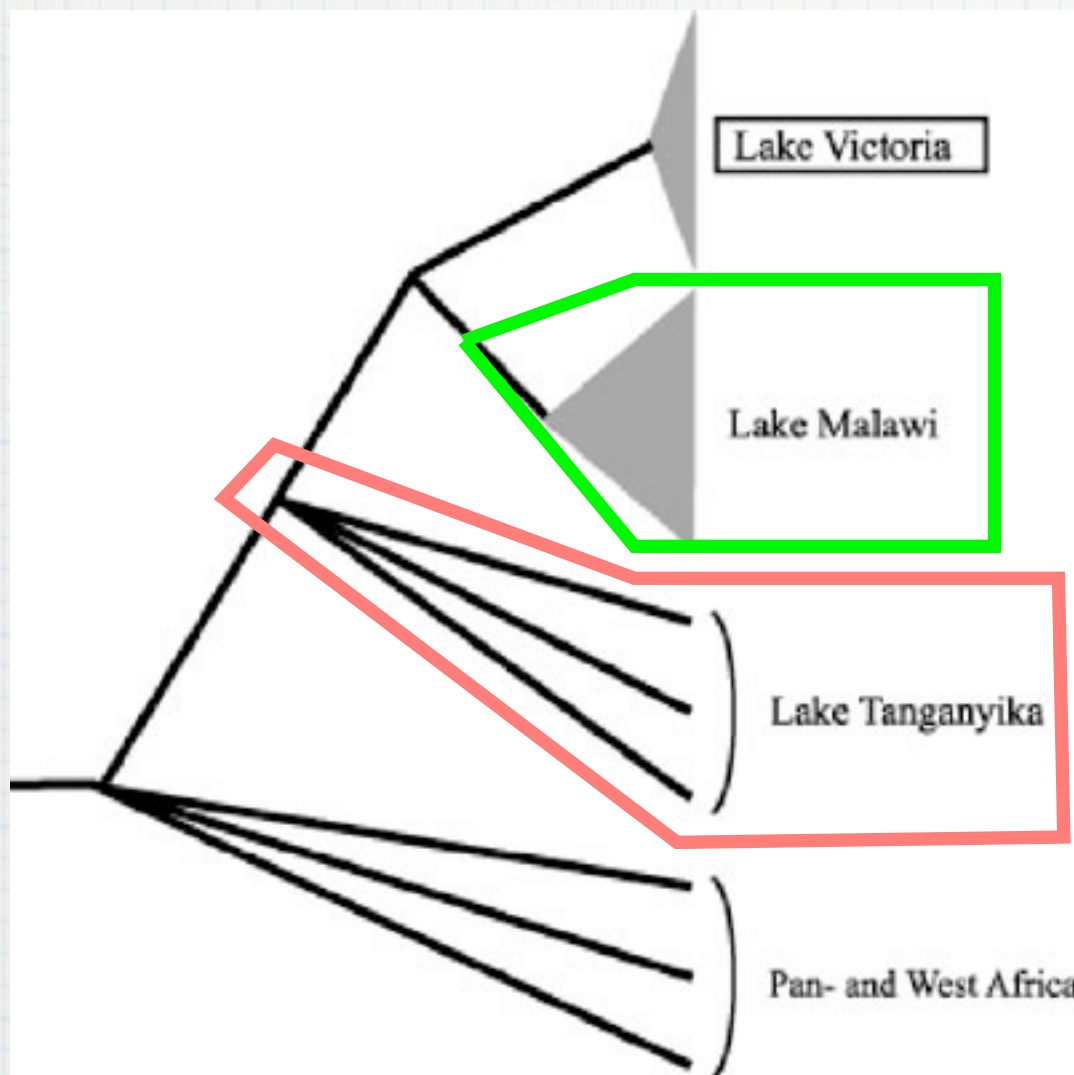
マラウイ湖 タンガニーカ湖

仮説 2 : 湖ごとに先祖が同じ



マラウイ湖 タンガニーカ湖

アフリカ東部のシクリッド科魚類の 系統地理学的考察 (Kocherら, 1993)



仮説 1 ×
仮説 2 マラウイ湖○
タンガニーカ湖△

マラウイ湖 タンガニーカ湖

系統分類の用語

- * 祖先形質（原始形質、plesiomorphy）
- * 派生形質（apomorphy）
- * 共有派生形質（synapomorphy）
- * 共通祖先（most recent common ancestor, MRCA）

共有派生形質を用いて枝分かれの順番を推定する

系統樹の用語

- * 単系統

一つの共通祖先から進化したすべての子孫を含むこと、またその性質を持つグループ

- * 側系統

一つの共通祖先から進化した子孫の一部を含むこと

- * 多系統

複数の共通祖先から進化した子孫を含むこと

側系統／多系統の違い

研究者の間でも議論があるほど難しい

系統樹と分類群

- * 単系統のグループ（クレード）のみを分類群と認める

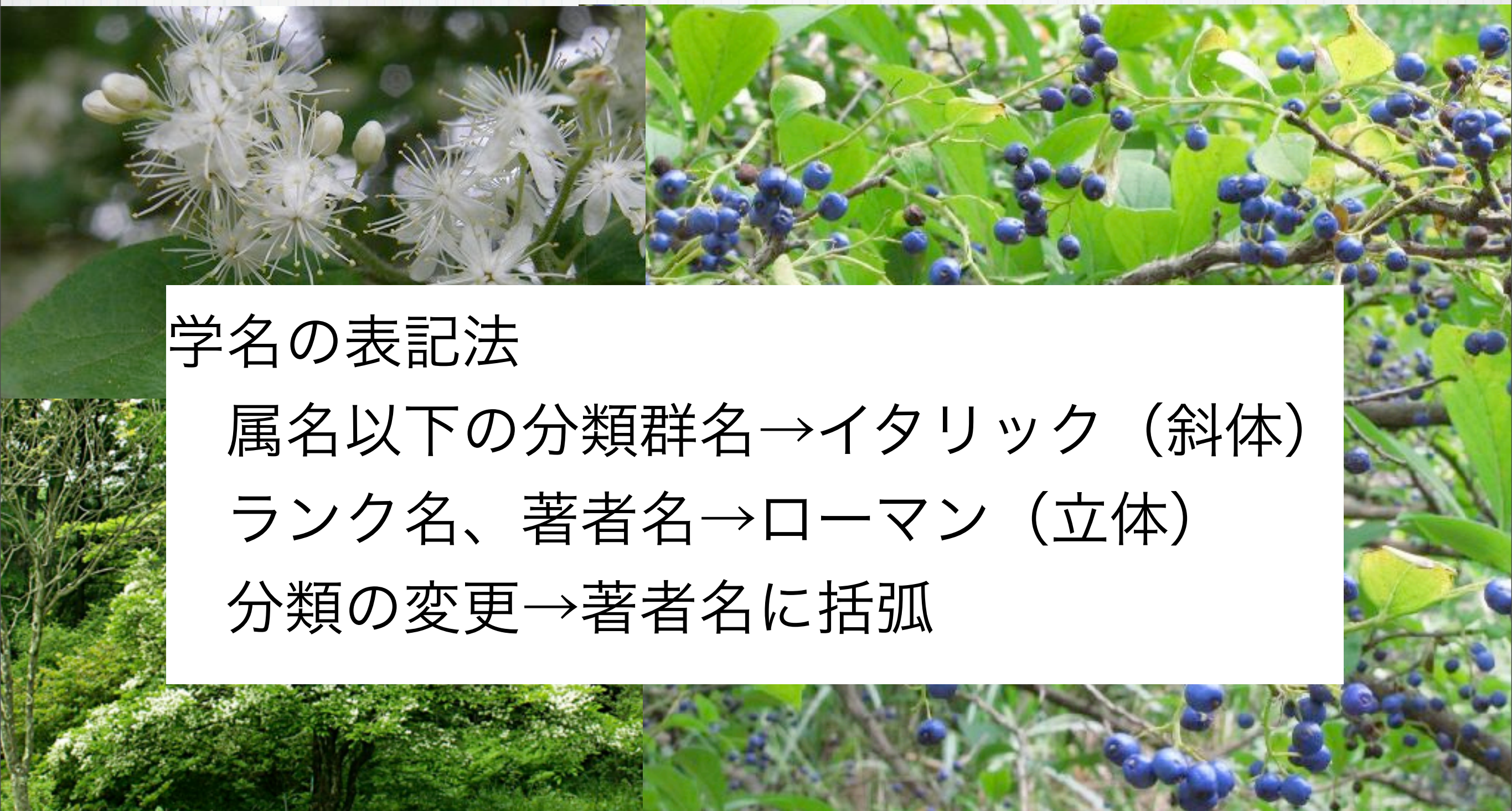
→異論はある

- * 階級に基づくリンネ式システムと一致させるのは困難

→系統命名規約 (PhyloCode) の登場

サワフタギ

Symplocos chinensis (Lour.) Druce var. *leucocarpa*
(Nakai) Ohwi f. *pilosa* (Nakai) Ohwi



学名の表記法

属名以下の分類群名→イタリック (斜体)

ランク名、著者名→ローマン (立体)

分類の変更→著者名に括弧

分類の変更によるサワフタギの学名の変遷

Palura pilosa Nakai (サワフタギ、中井)

Myrtua chinensis Lour. (サワフタギとは
関係ないと考えられていた)



Palura chinensis (Lour.) Koidz. var. *pilosa* (Nakai) Nakai
Myrtua chinensis は *Palura* 属に入れるのが妥当 (小泉)
サワフタギはその変種とする (中井)



Symplocos chinensis (Lour.) Druce
var. *leucocarpa* (Nakai) Ohwi f. *pilosa* (Nakai) Ohwi
Palura chinensis は *Symplocos* 属に入れるのが妥当 (Druce)
サワフタギは別の変種の品種として扱う (大井)